

～ウェストランド・ウェルキン(Welkin) Mk.I



二重キャノピー↓(出典:「Westland Welkin」
4 + Publishing)



[←ウェストランド社の前作ホワールウインドと]

詩的な「空」の名をもつ本機ウェストランド・ウェルキンは、ウェストランド社が製作した高高度戦闘機です。高アスペクト比の、まるでグライダーのような長い主翼が特徴です。正式採用されましたが、ドイツ空軍の高高度爆撃機が現れなかったため、実戦では使用されず、67機の生産に留まりました。本機の技術的特徴は2つ。まず、一部の機体は、左舷エンジン・マーリン113の回転方向を変更した同114を右舷エンジンとし、左右で回転方向を変え、トルクによる飛行方向への影響を打ち消しています。もう一つは、二重キャノピーとし、ガラス間に熱風を吹き付けて曇り止めとしました。特徴的な外観に加え、複数のギミックが盛り込まれた機体でもありました。

【模型について】

チェコのCMK製のレジンキットです。左右で回転方向の違う機体を模型化しています。キャノピー内や脚柱のディテールがとてもよく、良質のレジンキットですが、塩ビ製のキャノピーが黄ばんでしまっていたので、これをエポパテで型取りして、作り直しています。ついなので、内側キャノピーを取り付けて、二重キャノピーを再現してみました。…が、苦労した割に効果は微妙でしたw。



(中川裕幸 2022年8月)